

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW



International University of Health and Welfare

vol. 108
January
2017

海外保健福祉事情

新春のごあいさつ

高木邦格理事長・大友邦学長
矢崎義雄総長・天野隆弘大学院長



12月18日、原発事故によって福島県の富岡町の方が避難されている郡山市内の仮設住宅で、学生ボランティアによる餅つきイベントを実施した。5回目となった今回は、カルタや福笑いも用意して、一足早くお正月気分を味わっていただいた。

国際医療福祉大学・ 高邦会グループ理事長

高木 邦格



二〇一七年を迎え、皆様にご挨拶を申し上げます。

国際医療福祉大学は、開学よりまもなく二三年目を迎えるようとしております。日本初の医療と福祉の総合大学として開学以来、卒業生は一万九千人を超えました。栃木県をはじめ昨年開設した千葉県成田市と、神奈川県小田原市、福岡県福岡市および大川市の五キャンパスに八学部二一学科を持ち、現在では大学院生を含めると約七五〇〇人の学生が学んでおります。

昨年は、本学が一〇年以上にわたって取り組んでまいりました世界的な医学部の新設が認可された記念すべき一年となりました。京成本線「公津の杜」駅前の成田キャンパスに誕生する医学部には、本年四月に一四〇人の第一期

生を迎えます。ここに至るまでの長年にわたる皆様方のご支援に改めて感謝申し上げます。新しい医学部では国際性を重視しグローバルスタンダードに対応した医学教育を行いながら、国内外で活躍できる医師を育成いたします。また、大多数の科目で英語による授業を行い、一四〇人のうち留学生を二〇人受け入れるなど、これまでにない取り組みを行ってまいります。教育陣につきましても海外での教育や臨床経験豊富な人材を三〇〇人以上採用し、その約一割が外国人です。さらにキャンパス内には世界最大級となる五〇〇〇㎡のシミュレーションセンターを設置するなど、世界水準の医学教育を実現しながら総合診療力を持った医師を育成してまいります。おかげさまで、入試におきましては三三〇〇人を超える出願があり、一般入試の倍率は約二八倍に達しました。この予想以上の出願結果は本学の医学部に対する期待の大きさではないかと存じます。

二〇二〇年には、成田市畑ヶ田地区に六四〇床規模の附属病院を新設する予定です。国際遠隔画像診断センターや感染症国際研究センターなどを設置するとともに、一〇か国語に対応できるスタッフの配置、ハラル食など各国の食事の対応、宗教関連施設の設置など、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックも見据えながら世界的なハブ病院をめざします。

来年二〇一八年には、青山一丁目の大学院キャンパスを同港区内の旧赤坂

生を迎えます。ここに至るまでの長年にわたる皆様方のご支援に改めて感謝申し上げます。新しい医学部では国際性を重視しグローバルスタンダードに対応した医学教育を行いながら、国内外で活躍できる医師を育成いたします。また、大多数の科目で英語による授業を行い、一四〇人のうち留学生を二〇人受け入れるなど、これまでにない取り組みを行ってまいります。教育陣につきましても海外での教育や臨床経験豊富な人材を三〇〇人以上採用し、その約一割が外国人です。さらにキャンパス内には世界最大級となる五〇〇〇㎡のシミュレーションセンターを設置するなど、世界水準の医学教育を実現しながら総合診療力を持った医師を育成してまいります。おかげさまで、入試におきましては三三〇〇人を超える出願があり、一般入試の倍率は約二八倍に達しました。この予想以上の出願結果は本学の医学部に対する期待の大き

さではないかと存じます。

二〇二〇年には、成田市畑ヶ田地区に六四〇床規模の附属病院を新設する予定です。国際遠隔画像診断センターや感染症国際研究センターなどを設置するとともに、一〇か国語に対応できるスタッフの配置、ハラル食など各国の食事の対応、宗教関連施設の設置など、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックも見据えながら世界的なハブ病院をめざします。

国際医療福祉大学学長

大友 邦



新春を迎え、皆さまにご挨拶を申し上げます。

昨年度の大きな出来事は、何と言っても医学部の設置認可をいただいたことです。本学は、一九九五年に日本初の医療福祉の総合大学として開学し、大学院生を含め約七五〇〇人の学生が学び、すでに約二万人の卒業生が分野で社会に貢献しています。この実績のもと、一三年前から医学部新設を検討していましたが、成田市と共同で「国際医療学園都市構想」を提案し、国家戦略特区において昨年八月に認可されました。国際医療学園都市をめざして国内外で活躍できる、高度で総合的な診療能力を身につけた医師を育成するための、理想の医学部に向けて準備を進めております。

もっとも、私自身は昨年の四月に学長に就任したばかりであり、最初の行

小学校跡地に移転新築いたします。赤坂キャンパスには新たに医学研究科を開設し、公衆衛生大学院を設置するほか新分野も設置する予定です。メディカルスタッフの大学院としては国内最大級となる一〇〇〇人規模に拡張し、各職能団体とも連携しながら生涯教育の新たな拠点として、大学院教育をさらに充実させてまいります。

国際活動につきましても、一九の国

／地域で三五の大学・機関・病院と協定を締結するなど、昨年は海外における協定先が拡大いたしました。医学部新設にあたっては、東南アジア諸国と留学生受け入れのための協定を締結いたしました。ベトナム・ラオス・カンボジア・ミャンマー・モンゴル・インドネシアなど六か国の政府と提携し、各国から政府推薦による成績トップクラスの非常に優秀な留学生が集まりました。昨年十月よりすでに日本語教育が始まっており、将来、母国の医療を担うリーダーとして養成するため、毎年六億円のフルスカラーシップを用意し在学期間中の生活費や授業料などを全額負担して支援いたします。さらに、ベトナムに対する医療協力を推進するため、チョーライ病院において日本式の人間ドックを提供する健診センターを本年中頃にいよいよオープンする予定です。開学以来、本学が力を入れてまいりました海外の大学や病院との連携につきましても、引き続き関係強化を図るとともに、一層の国際医療貢献をめざします。

は昨年初めてでしたが、一次審査を通過した作品はいずれもすばらしく、日常における医療福祉の現状を高校生ならではの視点で書かれた秀作ばかりでした。特に最優秀・優秀・佳作に選ばれた皆さんの作品は、自らの体験から学んだことを素直につづり、家族や友人たちとの関わりにおいて、また自分自身の中で悩み葛藤する思いが描かれており、読む者に深い感動を与えるものでした。近年国内外でさまざまな事件が起こっていますが、それぞれの人がそれぞれの違いを認める「やわらかい心」を持続していくことが、誰もの願いです。そうすれば、皆が生きやすい社会になるのではないのでしょうか。

また、昨年の出来事としてとりわけ記憶に深く刻まれているのは、「国際医療シンポジウム」の開催です。文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国際協力機構（JICA）の後援を得て、ホテルニューオータニで開催しました。「アジア諸国と日本の国際医療協力および医学教育に係る今後の展開」をテーマにしたシンポジウムでは、ベトナム保健省グエン・ティ・キム・ティエン大臣、ミャンマー保健スポーツ省テッ・カイン・ウィン事務次官などが基調講演をされました。続いて、「アジア各国で必要とされる国際医療協力の在り方と今後の取り組み」と「アジアの医療発展に必要とされる人材育成と医学教育について」をテーマに、それぞれ二つのパネルディスカッションが行なわれました。ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー、中国、モンゴルか

ら来日した医療関係者、日本から政府・大学関係者等二〇人のご登壇を賜り、各国における医療発展の課題と国際医療人材の育成について有意義な議論が交わされ、会場を埋めた四〇〇人の聴衆は熱心に聞き入っていました。各国それぞれ取り巻く環境に違いがあるものの、高齢化社会という問題は共通であることから、一足先に超高齢社会を迎えている日本の医療福祉や人材育成の経験をアジア諸国にも生かし、そこで育成された医療人材がさらに国際協力を支える流れを作り出していくことの重要性が、シンポジウムを通じて共有されました。

さて、二〇一八年には、港区の赤坂小学校跡地に赤坂キャンパスを新設いたします。国内最大級の生涯教育の新拠点とするほか、現在の青山にある大学院を新築移転して一〇〇〇人規模に拡張します。同時に、敷地内には「記憶の森」と名付けたスペースをつくり、旧赤坂小学校の記念碑や樹木を移設展示することで、卒業生や地域の方々への思い出を継承し、講堂をはじめ体育館や図書館などは、一般の方々も利用できるようにするなど、住民の皆さまの交流の場として活用いただけるよう取り組みます。

医学部が開学する二〇一七年は本学にとって第二のスタートの年になります。医療福祉の総合大学として、高い専門性と豊かな人間性を兼ね備えた人材を一人でも多く輩出するという基本に立ち返り、日々の業務に当たります。一層のご支援、ご鞭撻をお願いいたします。

医療福祉の総合大学として、高い専門性と豊かな人間性を兼ね備えた人材を一人でも多く輩出するという基本に立ち返り、日々の業務に当たります。一層のご支援、ご鞭撻をお願いいたします。

国際医療福祉大学総長

矢崎 義雄



医療福祉専門職の
量と質の充実が急務

新年を迎え、皆様にご挨拶申し上げます。医療福祉専門職の育成とその地位向上をめざして一九九五年に開学した本学は二二周年を迎え、在校生は七五〇〇名（大学院生を含む）を数え、国家試験合格率トップクラスのわが国最大の医療系総合大学となりました。そして永年にわたり念願であった医学部が本年設置され、この四月には記念すべき第一期生を迎えることになりました。ここでは、従来の医学教育の枠組みにとらわれない斬新な構想のもと、総合的な診療能力と国際的な優れたコミュニケーション能力を有し、国の内外で活躍する次世代の医師の育成をめざした教育が行われます。

それないうま現在に至っています。その結果、今日わが国の医学教育は大きな転換期を迎えているといえます。そこで、根幹の部分から改革し、グローバルな視点からのまったく新しい構想に基づく本学の医学教育は、必ず他大学の医学部に大きな影響を与えるものと期待されています。さて、わが国は、国民の四人に一人が高齢者という文字通りの超高齢社会になりました。介護を必要とする人の数は六〇〇万人を超え、しかもその半数の方々が認知症になっているとされています。そのような方々を支え、今後増え続けると思われざる要介護者の数を抑制するためには、健康寿命を延伸して高齢者の自立度の低下を防ぐとともに、介護にあたる医療福祉専門職が協調して、高齢者を包括的にケアすることが大切です。このような視点から、本学では、医師、看護師、リハビリテーション専門職、介護専門職などの医療福祉専門職が、高度な知識や技術の修得ばかりでなく、幅広い視野を持つて包括的なケアができるように、関連職種連携教育に重点的に取り組んでいます。さらに、団塊の世代が七五歳以上となる二〇二五年までに、医療福祉専門職は少なくとも一五〇万人から二〇〇万人がさらに必要とされており、専門職の養成は急務です。本学の果たす社会的な使命はますます大きくなるといえます。学生の皆さんは、各分野の第一人者である教授陣のもと、充実した附属病院や関連施設が備わった本学で修練を積み、社会が求める医療人として今後活躍されることを、心より期待しております。

国際医療福祉大学大学院長

天野 隆弘



赤坂キャンパスの開設を視野に
医学系大学院の準備を本格化

新春のご挨拶を申し上げます。創立二〇年を過ぎた国際医療福祉大学の今後の発展にとって、本年は一層の飛躍を遂げる重要な基盤整備の年になるでしょう。本年四月には、成田市の公津の杜駅前に昨年開学した成田キャンパス二学部五学科の隣に、国際性をめざす医学部を新設し第一期生となる新入生を迎えます。創立以来、本学は医療福祉専門職の育成に尽力してまいりましたが、本年三月には卒業生が二万人を超えることになりました。医療福祉系の大学として発展してまいりました本学は、医学部新設によって文字通り医療系の完全な総合大学となります。この医療系総合大学のメリットを最大限に生かし、多職種連携で初めて成り立つ現在の医

療を率先して実践できる医療人を育成することはますます重要になるはずですよ。

大学院におきましてもさらなる充実を求め、医学部新設に続き公衆衛生大学院など医学系大学院の設立をめざすこととなります。来年四月には、大学院キャンパスは新たに東京赤坂の地に移ります。本年はこれに備え、これまで以上に内容を充実させる大学院をめざす準備の年となります。トピックスといたしましては、大学院に医療通訳・国際医療マネジメント分野を新たに開設することに加え、周麻酔期看護学領域（仮称）の開設もめざしております。

また、赤坂キャンパス開設の折には保健師の大学院養成コースを新設すべく準備をしております。この赤坂キャンパスには、臨床心理士の養成や、診療情報管理、医療マネジメントの専門家を養成する学部の設置も議論されております。

国際医療福祉大学と大学院は、高齢化が進む日本社会のニーズに合った教育機関として、その役割がますます重要になってまいります。大きく変化を遂げる日本の未来を担うべく、絶えずイノベーションを実現できる大学となるよう、皆様とともに歩んでまいります。

本年も皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【平成28年度 学位記授与式】

■学部／大学院 学位記授与式

- ・大田原キャンパス＝学部／大学院
平成29年3月8日（水）10:20～
那須アスリーナ（体育館）
- ・小田原キャンパス＝学部／大学院
平成29年3月10日（金）10:20～ 本校舎 講堂・ラウンジ
- ・福岡キャンパス／大川キャンパス＝学部／大学院
平成29年3月6日（月）13:00～
福岡国際医療福祉学院 体育館

■大学院 学位記伝達式・修了生歓送会

- ・東京青山キャンパス（東京青山／小田原／熱海）
平成29年3月11日（土）16:30～
東京青山キャンパス 5Fホール

■卒業式

- ・塩谷看護専門学校
平成29年3月3日（金）10:00～ 講堂

【平成29年度 入学式】

■学部／大学院 入学式

- ・大田原キャンパス＝学部／大学院
平成29年4月3日（月）10:20～ 那須アスリーナ（体育館）
- ・成田キャンパス＝医学部（開学式・入学式）
平成29年4月2日（日）13:00～ 成田国際文化会館
- ・成田キャンパス＝成田看護学部・成田保健医療学部
平成29年4月4日（火）10:20～ 体育館
- ・小田原キャンパス＝学部／大学院
平成29年4月5日（水）10:20～ 城内校舎 体育館
- ・福岡キャンパス／大川キャンパス＝学部／大学院
平成29年4月6日（木）11:00～ 大川キャンパス 講堂

■大学院 新入生歓迎会

- ・東京青山キャンパス
平成29年4月8日（土）13:00～
東京青山キャンパス 5Fホール

■入学式

- ・塩谷看護専門学校
平成29年4月7日（金）10:00～ 講堂

特集 新春のごあいさつ

- ・国際医療福祉大学・高邦会グループ理事長 高木 邦格
 - ・国際医療福祉大学学長 大友 邦
 - ・国際医療福祉大学総長 矢崎 義雄
 - ・国際医療福祉大学大学院長 天野 隆弘
- 学位記授与式・入学式の日程

キャンパスレポート

- 6～9 成田キャンパス／小田原キャンパス／福岡キャンパス／大川キャンパス
- 10 大学院／塩谷看護専門学校

夏季海外保健福祉事情

- 11～13 韓国／ベトナム／ラオス／シンガポール／オーストラリア

トピックス

- 14 第13回 学生&企業研究発表会／第7回「共に生きる社会」めざして 高校生作文コンテスト 表彰式開催

国際トピックス

- 15 医学部入学予定者が留学生別科に入学／ハンガリー・センメルweis大学と学術交流協定を締結

- 15 留学生が見た 母国と日本の保健福祉事情

施設インフォメーション 新春のごあいさつ

- 16 国際医療福祉大学病院病院長 桃井 眞里子
国際医療福祉大学塩谷病院病院長 福井 康之
国際医療福祉大学三田病院病院長 宮崎 勝
国際医療福祉大学熱海病院病院長 佐藤 哲夫
国際医療福祉リハビリテーションセンターセンター長 下泉 秀夫
新宿けやき園施設長 中谷 肇一
山王病院病院長 堤 治
化学療法研究所附属病院病院長 佐伯 直勝
高木病院病院長 工藤 祥

- 18 同窓会通信
- 19 生涯学習のご案内

- 20 学生投稿ページ



12月19日～29日、大田原キャンパスで、韓国・コニヤン大学の理学療法学科の学生25人が研修を行った。20日には、OPST部（海外のヘルスケア事情に取り組む部活）が企画したクリスマス会に招かれ、ケーキのデコレーションを楽しんだ。【写真左】企画から買い出しまで、会を取り仕切った大倉志織さん（薬学科2年）【写真右】用意された生クリームとお菓子のデコレーションに取りかかる研修生たち



12月22日、ボランティアサークル「羽ばたき」が、那須塩原市の三島小学校の冬休み集会の最後に時間をいただき、ベルマーク活動を紹介した。【写真左】福島県の小学校に一輪車を贈呈した活動などを紹介した【写真右】退場する児童に収集ボックスを見せて協力をお願いした左から、生井聖也さん（2年）、佐藤千耀さん（3年）、篠原舜さん（2年）（いずれも医療福祉・マネジメント学科）

第6回
成田

キャンパスレポート

留学生 秋の遠足

一月二日、成田キャンパスでは初めての「留学生 秋の遠足」を実施した。留学生と日本人学生、教職員がともに日本の文化、地域の特徴に触れることにより、親睦を深めることが目的である。成田キャンパスの留学生五名と来年四月に新設する医学部に入学生七名に加え、日本人学生四名、教職員八名の計二十四名が参加した。



●牛との触れ合い



●総門で記念撮影

つたりして時間を過ごし、昼食は全員で鉄板を囲みながらバーベキューを楽しんだ。新鮮な野菜や肉を皆で調理し、自然と笑みがこぼれた。

午後は「成田山新勝寺」を参拝した。ボランティアガイドの説明を聞きながら、境内の版画を鑑賞したり、庭園を散策したりした。散策の途中、御護摩の火に大切なものを近づけると、ご利益があるとされる御護摩祈禱が行われており、一行も鞆や財布などを火に近づけてご利益を祈った。



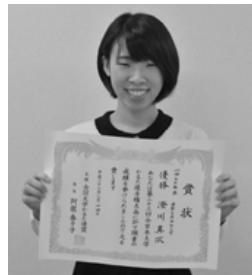
●成田インターナショナルハウス

なお、医学部入学生予定の留学生は現在、成田市玉造にある学生寮、成田インターナショナルハウスに住み、医学部入学生までの半年間、日本語の勉強を中心に過ごす予定である。

全日本大学かるた選手権大会優勝

八月三日、滋賀県の近江神宮で行われた第二三回全日本大学かるた選手権大会「二回生の部」において、成田保健医療学部言語聴覚学科一年の澄川真依さんが優勝した。競技かるたとは、百人一首の札をお互いの陣に二五枚ずつ並べ、先に自陣の札をなくした方が勝ちとなる競技である。澄川さんが競技かるたに興味を持ったのは、中学一年生の冬に学校行事で行ったかるた大会で、三年生の先輩に負けて

悔しい気持ちになったことがきっかけである。始めた頃は、学校にサークルや部がなく、五、六人の同好会(中高一貫校)からスタートした。高校生になると、県選抜にも選ばれる実力をつけ、正式に部に昇格した。大学生になった今でも、定期的に母校の練習に参加している。



●言語聴覚学科1年 澄川真依さん

今回の活躍と今後の目標について、「高校時代はメンタルが弱く、大事な試合で負けることが多かったが、大学生になって落ち着いてかるたを取ることができるようになった。今後の目標は、成田キャンパスにかるた部を立ち上げて、さらに実力をつけること。将来かるたのクイーン(女性の日本一)になりたい」と、熱く語っている。

さらに、澄川さんは一月五、六日に行われた小倉百人一首競技かるた全国大会(県対抗団体戦)に千葉県代表として出場し、成人も出場するなか、四位と大健闘した。

公開講座を開催

一月一日、公開講座がスタートした。成田キャンパスでは、「一般教養シリーズ」として四回、「健康シリーズ」として五回の全九回行う計画である。

「一般教養シリーズ」第一回は、報道番組のコメンテーターも務めている川上和久教授が担当し、「政治の読み解き方」をテーマに、熱く語っている。

「健康シリーズ」第一回は一月二〇日、成田看護学部長の山下香枝子教授が「若い人のまなざし」をテーマに、年齢とともに起こる体の機能の低下や老化とどう向き合っていくかについて講義した。

一月一七日の第二回は、成田保健医療学部作業療法学科担当が「今日からできる! あなたの元気を支える作業活動」をテーマに開催した。男性参加者は草細工、女性参加者は組み紐を用いた作業療法を体験したり、治療手段の体験説明を聞いた。後半は、患者さんが実際に使用する調理器具や車いすなど、さまざまな福祉用具を使用して、作業療法への理解を深めた。



●講義する福井教授

以上四回の講義には、合計で約二四〇名が参加した。(広報 瀬谷直貴)

第41回
小田原

キャンパスレポート

潮風祭の売上金の一部を寄付

一月三〇日、小田原市役所にて、潮風祭実行委員会副実行委員長の山田哲寛さん(理学療法学科二年)が、加藤憲一(小田原市長に、熊本地震の被災地に対する義援金を手渡した。これは、一〇月八日・九日に行った潮風祭の売上金の一部と会場で募った募金で、寄付金の総額は一〇万六八七七円になった。



●左から、黒澤和生学部長、山田さん、加藤市長

小田原市は、小田原城の入場料を熊本市に寄付するなどの継続的に熊本市の復興を支援している。また、加藤市長は、日本赤十字社神奈川県支部小田原市地区長も務められており、今回の寄付金は、日本赤十字社を通して、被災地に届けられる。

(総務課 高久晃)

「まちカフェ」に参加

一月二七日、小田原市民と加藤憲一(小田原市長との懇談会「まちカフェ」)が開催され、本学より学生六名が参加した。「まちカフェ」は、小田原市が主催する市民と市長の新しい交流の場として年に数回開催されていて今回は、「学生と市長のまちづくり懇談会」というテーマで開催された。



●まちカフェの様子

本学から参加した学生は、川上りさん、白鳥満帆さん(以上看護学科二年)、川野卓仁さん、沼澤瞭さん(以上理学療法学科三年)、中島史佳さん、三好春菜さん(以上作業療法学科三年)。ほかに、小田原短期大学、東海大学、北里大学、立正大学の学生や社会人の合計一五名の若者が小田原のまちづくりについて提案した。

本学の学生は、「生涯スポーツの振興について」、「小田原駅周辺の分煙について」、「働く母親のためにも、子育て相談窓口の時間延長を」、「身体・知的・精神のどの障害でも対応できる施設を」などを提案した。

加藤市長は、参加した若者の意見に耳を傾け丁寧コメントを返していた。参加した学生も、加藤市長と直接対話できる貴重な時間を楽しんでいた。

(総務課 高久晃)

第二回スポーツ大会

一月二二日、第二回スポーツ大会を開催した。前日の雨でグラウンドの状態が心配されたが、すばらしい秋晴れのもとでの開催となった。

実習中の作業療法学科二年生は実行委員の二人だけの参加で、学科としては不参加だったが、残念だった。



●準備体操はラジオ体操

種目は八種目で、「ボートボール」が始まり、最後は「学科対抗リレー」で締めくくった。多くの学生が楽しめるように実行委員が話し合つて分刻みのスケジュールを組んだ。実行委員長の川上りさん(看護学科二年)がテンポの良い司会進行で各競技に出場する学生を誘導した。学生もスムーズに移動し、本気過ぎるほどの気合で競技に集中、応援の学生も大声で盛り上げて、時間通り進行した。



●大縄跳び

四月に開校した城内校舎グラウンド

での開催で、授業が本校舎中心の二年生と城内校舎中心の一年生、実行委員の学生たちの連絡や調整は難しく、準備は大変な様子だったが、城内校舎の学食を利用して、「サンドイッチ」か「おにぎり」を選べるなど機転が利く配慮もあった。



●男子競技のサッカー



●障害物競走



●女子競技の棒取り

が美化活動として雑草取りから始め、何人もの手を借りて整備。前日も大雨となつて整備は労力を費やしたが、大きなケガもなく快晴のもと、学生の晴れやかな笑顔で閉会式を終えた。

各学科の絆を深めあつた記憶に残る充実した学生生活の思い出の一日となった。(学務課 下田智香子)

第31回

福岡

キャンパスレポート

「三菱電機健康フェア」に参加

一月二六日、三菱電機パワーデバイス製作所本館一四会議室において「三菱電機健康フェア」が実施され、福岡看護学部から地域交流委員会のメンバー（川口賀津子准教授、仙波洋子講師、森雄太助教、阿南沙織助手、溝部昌子）が講師として参加した。

「BLS（一次救命処置）を学ぼう！」をテーマに、成人と小児モデルを使い、BLSについての説明と実践指導を行った。参加者は、BLSの経験がある方や関心がある方などさまざまで、夫婦や家族連れも多かった。「万一のときに今回学んだことを実践できるようなしたい」と、熱心に受講されていた。

小児へのBLS・窒息解除法は、普段体験する機会が少ないことから、興味や関心を持たれる方が多かった。特に、小さな子ども連れや若いご夫婦から、「身近で起こりうることで、どのように対応すればよいかを学び、勉強にな



●成人モデルと小児モデルを使用



●実践方法のパネルを設置してわかりやすく指導

平成二八年度 高大連携事業

福岡看護学部では、今年度から、教育、人材育成、地域の発展に貢献することを目的に、沖学園高等学校（福岡市博多区）との連携事業を開始した。七月一六日と一月五日の二日間、同校の社会総合学科・保育福祉コース一〜三年生の受講希望者を対象に、本学教員が福岡キャンパスで講義した。

◆認知症のタイプと上手な接し方（看護学科 准教授 溝部昌子）

「た」という感想をいただいた。地域交流委員会のメンバーにとっても、地域の方々との交流を図るとともに、BLSの知識をさらに深める機会となり、貴重な経験となった。

（看護学科 准教授 溝部昌子）

教員の教育・研究能力を高めるミニFDの試み

福岡看護学部では、教員の教育力・研究力を高めることを目的に、今年度から、合同FDに加え、学部内で実施するミニFDを開始した。



●最後にあいさつする斉藤ひさ子学部長

ミニFD開始にあたり、千葉大学が文部科学省と共同で開発した「看護学教育におけるFDマザーマップ」を用いて、教員のFDへのニーズを調査した。FDマザーマップは「基盤」「教育」「研究」「社会貢献」「運営」の五領域で構成されるが、本学部では特に若手教員の育成を視野に入れ、「教育」「研究」の二領域におけるニーズを抽出した。そして、自己評価で「できない・何とかできる」という回答の多かった項目から選んでミニFDで取り上げることとした。

八月三日の第一回は「学生の主体的学習への支援」をテーマに、基礎・成人精神の三領域から講義・演習・実習における実践を報告。その後、ディスカッションをして約一時間で終了した。感想として「短い時間だったが、充実した内容だった」「これまで他領域の講義内容について知ることがなかったもので、とても良い機会となった」などの意見が多く聞かれた。

一月二六日の第二回は「看護概念と実際の看護現象を関連付けて学生が理解できる効果的な教材作成」というテーマでディスカッションも活発に行われた。実習などの関係で、教員が全員揃う日程調整などミニFDの開催には課題もあるが、学部内で研鑽ができるミニFDをこれからも続けていきたいと考えている。

（看護学科 教授 白石裕子）



●会場の様子

第45回

大川

キャンパスレポート

理学療法学科卒業研究発表会を開催

一月二九日、理学療法学科卒業研究発表会（第九期生）を開催し、一一のゼミより二二演題が発表された。卒業研究は選択科目だが、昨年同様、四年生全員が履修した。在学時に研究手法を学ぶメリットは、臨床における研究の推進と専門性を深めるなど、個人の付加価値を高める要素に繋がると考える。四年次前期から、それぞれ関心のある領域ごとに分かれ、指導教員のもと、研究テーマの立案、関連文献の精査、倫理委員会における審査、データ収集、統計といった過程を経て積み重ねてきたものである。



●活発な質疑応答が行われた

卒業研究発表会は大川キャンパスの講堂で、全ての演題を全国学会と同じポスター発表形式で行った。また、各グループがローテーションで各演題を回り、全ての演題内容を聴取、質疑応答ができるようにした。二二演題は領域や内容が多岐にわたり、興味深い演題が多数見られた。実習期間中の三年

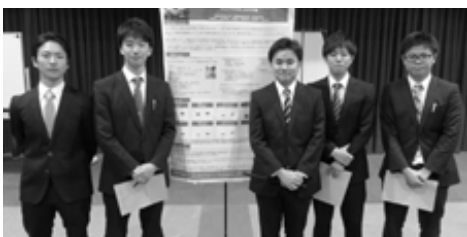
生も多数参加し、研究の大きさや面白さを垣間見る機会になったようだ。研究内容をj知ることができ、来年度卒業研究を履修するうえで、希望するゼミや指導教員を決定する参考になったと思われる。

三・四年生と教員の投票により、最優秀演題賞、優秀演題賞、奨励賞を決定した。

●最優秀演題賞

「一〇時間の下肢関節固定がバランス能力、運動機能および不安感に及ぼす影響」

整形外科領域では骨折後など、安静を強いられる場合に下肢関節を固定することが一般的である。固定期間が長期化することは、筋力低下や感覚の変化を招くことが報告されている。本演題では、一〇時間という短時間でバランス能力などの問題が生じることが懸念されていることについて、



●最優秀演題賞を受賞したメンバー

臨床上、重要な知見になると考えられた。

●優秀演題賞

「高齢者の膝屈伸時同時収縮に対する自転車エルゴメータ運動効果の検証」

●奨励賞

「ヘッドマウントディスプレイによる視野運動刺激が平衡機能に及ぼす影響」

その他の演題も甲乙つけがたく、日々の努力が伝わる内容の濃い発表会であった。今回の内容は、理学療法全国学術大

平成二八年度地域公開講座を開催

大川キャンパスでは、本学の持つ教育研究機能を広く社会へ開放する生涯学習の展開と、地域への貢献を目的とする活動を積極的に推進しており、「社会に開かれた大学」として、地域公開講座を実施している。

今年度は、糖尿病予防のための運動や生活について学ぶ「実はあなたも糖尿病？」とその基礎知識と予防法」と題し、二回連続の体験型講義として開催した。地元の大川市をはじめ、約六〇名を超える地域の方々にご参加いただいた。

◆第一回 一月九日

「糖尿病の基礎知識 定義から検査数値



●体を動かすことの大切さを語る深浦学科長

「アクティブライフ！ープラス一〇分の活動的な生活ー」（講師：作業療法学科 講師 原麻理子、理学療法学科 助教 岡真一郎）

第一回の内容を受け、糖尿病予防のための運動や生活について、簡単な実技やチェックシートを用いた体験型講義を行った。普段あまり体を動かしていない方から、「体を動かしたら、少しの時間だけだが体が楽になり、簡単なので実行していきたい」との声があった。

二回の講座の最後に、地域交流委員会委員長の深浦順一言語聴覚学科長より「普段の生活の中で、体を動かすように心がけることが大切」との総括がなされた。今後も「社会に開かれた大学」として、地域の皆様が気軽に参加できる生涯学習の場を積極的に提供していきたい。

（事務部地域公開講座担当 石橋武彦）

のみかたまで」

（講師：医学検査学科 准教授 片山雅史、言語聴覚学科 助教 福井恵子）

糖尿病の概要と検査数値の示す意味を学んだ。また糖尿病によって発症リスクが高まる病氣も紹介され、「分かりやすく、糖尿病の恐ろしさが分かった」との声があった。

◆第二回 一月二二日

「アクティブライフ！ープラス一〇分の活動的な生活ー」（講師：作業療法学科 講師 原麻理子、理学療法学科 助教 岡真一郎）

第一回の内容を受け、糖尿病予防のための運動や生活について、簡単な実技やチェックシートを用いた体験型講義を行った。普段あまり体を動かしていない方から、「体を動かしたら、少しの時間だけだが体が楽になり、簡単なので実行していきたい」との声があった。

二回の講座の最後に、地域交流委員会委員長の深浦順一言語聴覚学科長より「普段の生活の中で、体を動かすように心がけることが大切」との総括がなされた。今後も「社会に開かれた大学」として、地域の皆様が気軽に参加できる生涯学習の場を積極的に提供していきたい。

（事務部地域公開講座担当 石橋武彦）



●糖尿病予防のための運動指導

★ベトナム チョーライ病院 ホーチミン市医科薬科大学

**現地スタッフも称賛。自分たちで
考えて学んだ一〇日間**

福岡保健医療学部 言語聴覚学科
助教 石川幸伸

八月四日から一〇日間、小田原、福岡、大川の三キャンパスから学生三十二人が参加した。院内を見学して役割などを学んだ後、各々の病院で各学科の専門性に合わせたプログラムを遂行した。

病院のスタッフから、「今回の学生たちは積極的なので、我々ももっと勉強しないとけないとみんなが話している」ということを聞いた。これが今回の研修の様子をよく表していると思う。学生たちが拍手を送りたい。



●チョーライ病院リハビリテーション科の方々と

**現地の医療の問題点から
海外支援についての考えが深まった**

福岡保健医療学部 言語聴覚学科
二年 小林佑子

ベトナム研修の特徴は充実した実習プログラムにある。現場セラピストの指導のもと、患者さんに施術する機会もいただき、大変貴重な体験となった。チョー

★ベトナム チョーライ病院 ホーチミン市医科薬科大学

**交流二〇周年記念式典を
開催し親交を深めた**

福岡保健医療学部 作業療法学科
教授 濱本邦洋

九月一日～二日、大川キャンパスから二人、大田原キャンパスから五人の学生が参加し、施設見学や実習を行なった。さらに、研修修了式に合わせて、丸山仁司副学長、チョーライ病院院長をはじめ多くの参加者のもと、本学とチョーライ病院の交流二〇周年記念式典を行った。ホーチミン市医科薬科大学の学生によるベトナムの踊りや、日本の学生によるソーラン節で、大いに盛り上がり、最後は両国の参加者が輪になって踊り、大いに親交を深めた。



●ホーチミン像と同じポーズで写真におさまる学生たち

**長いようであつという間の時間。
スタッフの優しさに感謝**

福岡保健医療学部 理学療法学科
二年 住友葵

見学、実習、市内視察などの充実したプログラムを体験した。慣れない環境でともに過ごしたことにより、一緒に参加した仲間との親交も深まった。

ベトナムと日本の医療形態にはほぼ違いは見当たらなかったが、設備の面では日本と比べて不十分どころが見受けられた。一方、スタッフの方々はみな優しく接してくださったので、不安な点も乗り越えられた。さらに、国を超えた新たな出会いもたくさんあり、とても良い経験になった。

●ラオス 国立健康科学大学

**初めてのラオス研修で現地の
健康課題など多くを学んだ**

福岡看護学部 看護学科
准教授 溝部昌子

ラオスは今回初めて研修国に加わった。国立健康科学大学を中心に、研究所、大学病院、地域病院などさまざまなタイプの保健医療施設を見学し、歴史、文化、自然に触れる機会も多かった。

国立健康科学大学では、双方の学生が自国の保健医療課題と文化についてプレゼンテーションを行ったほか、研修期間を通じて交流が持たれた。風土



●ラオス健康科学大学の皆さんと記念撮影

**緊張を安心に変えた国民性。
現地に行くことの大切さを
実感**

福岡看護学部 看護学科
三年 斎藤まりあ

初めてのラオス研修ということで、不安や緊張があった。しかし、現地では多くの方々が親切にしてくださり、さまざまな研修先で医療事情について学び、有意義な時間になった。日本での事前学習

●シンガポール ナンヤンポリテクニク

**少子化や成人病対策は
先進国に共通の課題**

保健医療学部 放射線・情報科学科
教授 西木雅行

シンガポールは建国五一年という若い国だが、地の利を生かした絶妙な政策により、アジアの中でも経済が突出して発達した国である。

提携先のナンヤンポリテクニクや訪問した病院は充実した設備を誇るが、同時に、先進国共通の悩みである少子化や成人病対策に取り組んでいる姿も知ることができた。

**現地で受け入れられている
日本とは異なる医療制度を
学んだ**

小田原保健医療学部 理学療法学科
二年 熊澤柚風

現地に着いてまず驚いたのは、東京と同じように多くの高層ビルが建っていることで、思っていた以上の発展都市であ



●世界遺産のシンガポール植物園にて

●オーストラリア TAFEゴールドコースト

**英語とともに学んだ現地事情の
体験をグローバルな活躍の契機に**

保健医療学部 作業療法学科
教授 藤田亘

八月二六日から二週間の研修に、大田原キャンパスから一七人、大川キャンパスから九人の学生と引率教員二人が参加した。学生はホームステイをしながらの研修である。TAFEゴールドコーストは語学学校・職業訓練校であり、各自のレベルに合ったクラスで短期コースの語学研修を受けたほか、大学病院や福祉施設などの見学を行った。

今回の講師やホストファミリーからの学びや見学による多くの発見は大変実りある経験であった。今後はさらなるグローバルな飛躍をめざしてほしい。

**ことばが通じたときの喜びを
知り語学力の大切さを実感**

福岡保健医療学部 医学検査学科
二年 池田佳奈江

英語クラスを受講しながら、オーストラリアの保健福祉事情を学んだ。最も印象に残っているのはホームステイである。初めは英語が通じず、聞き取れなかったのが苦労した。しかし、なんとかコミュニケーションをとりたいたいと思い、積極的にジェスチャーや筆談を使って話しかけた。ホストファミリーも伝わるまで繰り返し話してくれて、意思疎通ができたときの喜びは忘れられない。今回の研修で、英語でのコミュニ



●ホストファミリーとの集合写真

●冬季海外保健福祉事情

春休みを利用して、学生三九人、教員四人が参加して実施する予定です。その様子は次号でレポートします。

研修先

・オーストラリア TAFE
クイーンズランド
・オーストラリア グリフィス大学
・シンガポール ナンヤンポリテクニク

大田原キャンパス

第二三回 学生&企業研究発表会

一月二六日、第一三回学生&企業研究発表会（大学コンソーシアムとちぎ主催）が開催された。県内の大学などが一堂に会して、「地域社会活性化」、「環境エネルギー」、「ものづくり」、「医学・医療・福祉」の四分野で、学生主体による研究や活動内容を発表し合うユニークなイベントである。

本学からは、「医学・医療・福祉分野」に薬学科の四グループ（口頭発表三、ポスター発表一）と理学療法学科の四グループ（口頭発表）が参加し、ポスター発表で金賞を受賞したほか、三グループが協賛企業などによる特別表彰を受けた。

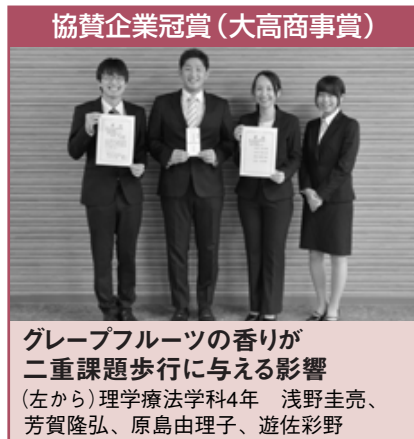
【医学・医療・福祉分野】



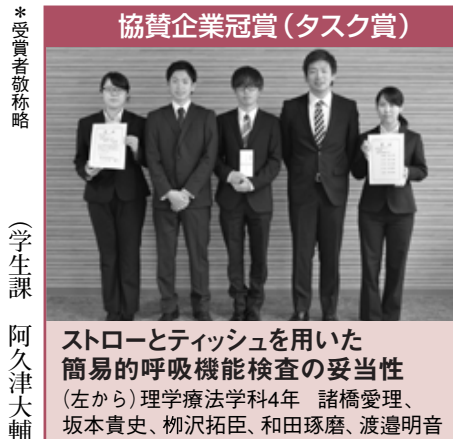
主催者賞（金賞）
栃木県における女性特有疾患の問題と対策
（左から）薬学科5年（中毒学分野）久保保、安麻友子、矢野美和子



主催者賞（朝日新聞社賞）
アルコール依存に関する基礎研究と啓発活動による社会貢献
（左から）薬学科5年（中毒学分野）増本明日香、相良美幸、高宮栄佑、竹田衣武希、松崎友宏



協賛企業冠賞（大高商事賞）
グレープフルーツの香りが二重課題歩行に与える影響
（左から）理学療法学科4年 浅野圭亮、芳賀隆弘、原島由理子、遊佐彩野



協賛企業冠賞（タスク賞）
ストローとティッシュを用いた簡易的呼吸機能検査の妥当性
（左から）理学療法学科4年 諸橋愛理、坂本貴史、柳沢拓臣、和田琢磨、渡邊明音

*受賞者敬称略

（学生課 阿久津大輔）

成田キャンパス 医学部

入学予定者が留学生別科に入学

医学部に入学予定の留学生の第一陣が一月四日に来日した。ベトナムから五名、モンゴルから二名の奨学生で、医学部に進学した後、卒業まで、入学金や授業料、教材費、生活費などの奨学金が給付される。留学生別科に入学し、三月まで日本語の予備教育を受ける予定で、成田市内に新設した学生寮「成田インターナショナルハウス」に入寮した。

成田空港到着時と翌日のオリエンテーションには、

医学部の教員も加わって温かく迎えた。また、看護学部の留学生の発案で、成田キャンパスで学ぶ留学生や日本人学生を集めた歓迎会のほか、留学生の遠足などの交流行事が続いた。



●赤津晴子教授との食事会の様子

さらに、ミャンマー、カンボジア、インドネシアなどから同様の奨学生が来日し、開学に向けて全力のサポートを継続している。

（学務課 佐野美智子）

ハンガリー・セメルワイス大学と学術交流協定を締結

一月七日、ハンガリーの国立セメルワイス大学と学術交流協定を締結した。同大学は一七六九年に医学部を設立したハンガリー最古の医科大学である。医学部創立二〇〇周年の一九六九年には、「産褥熱」を発見して予防法を確立し、院内感染予防の先駆者とされるハンガリー人医師、セメルワイス・イグナツの名前を冠した名称に改称した。医学部、歯学部、薬学部、健康科学部、保健公共事業学部を擁し、学生数は一二〇〇〇名に上る。国内最大規模となる二七の医療機関に二一〇〇床を有し、人口の六％に医療ケアを提供している。ハンガリー語だけでなく、英語やドイツ語による課程もあり、約三分の一が留学生という国際性を備える。



●セメルワイス大学の学生たち ©Simmelweis University

今回の協定締結は、昨年三月に、同大学名誉医学博士・北島政樹副理事長の友人であるシャンドール・ヨゼフ教授とセメルワイス大学学長が来日し、協定締結に向けた協議の開始に合意したことに端を発する。本学の医学部新設を契機に、学生や教員の相互派遣などの交流を通じて、友好関係が発展、促進されていくことが期待される。

（国際部 稲垣有美）

第七回「共に生きる社会」めざして高校生作文コンテスト表彰式開催

本学と毎日新聞社の共催による「『共に生きる社会』めざして 高校生作文コンテスト」は七回目を迎え、今年は全国から一八〇四点の作品が寄せられ、一次審査、最終審査を経て、最優秀賞一点、優秀賞二点、佳作二点、入選五、学校賞七校が選ばれた。



●受賞作品を朗読する最優秀賞の柴田さん

一月二六日、秋晴れのもと、大田原キャンパスで表彰式が行われた。式典の前に、「画像診断入門」がん・心疾患・脳血管障害を中心に」と題して大友邦学長の特別講演があり、一般来場者や在学生が多数詰め掛けた。身近な画像診断について具体的な症例を実際の画像を用いて分かりやすく解説した。



●表彰式に出席された受賞者の皆さん

最優秀賞	優秀賞	佳作	入選	学校賞
柴田裕唯さん 福島県立福島高等学校二年	後藤泉稀さん 広島・益進高等学校一年	高沼千晶さん 栃木県立那須拓陽高等学校三年	北田瑞季さん 岩手県立盛岡第二高等学校三年	齊藤友一郎さん 東京・明治学院高等学校三年
市川菜々香さん 千葉・翔漢中学校・高等学校一年	井上菜さん 東京・八王子学園八王子高等学校三年	福島未久さん 茨城県立並木中等教育学校五年	堀江風花さん 和歌山・智辯学園和歌山高等学校二年	山田莉彩さん 静岡県立富士山高等学校二年
福島・福島東陵高等学校	栃木・宇都宮文星女子高等学校	千葉・翔漢中学校・高等学校	東京・八王子学園八王子高等学校	静岡県立富士山高等学校
福岡・近畿大学附属福岡高等学校	熊本県立八代清流高等学校			

（東京事務所広報部 秋山佳二）

留学生が見た 母国と日本の保健福祉事情 第7回

よりよい福祉社会をめざして
医療福祉先進国の日本で学ぶ日々

沈文（シンブン）さん・中国出身看護師



私は現在、竹内孝仁先生のご指導のもと、「特別養護老人ホームにおける看護職と介護職の連携と協働」をテーマに研究を進めています。

中国で大学を卒業し、看護師として五年間、病院で働いていました。近年、医療の多様化・高度化・専門化が進み、地域における保健・医療・福祉がますます重視されるようになってきました。そんななか、東京医科歯科大学で幹細胞分野の研究補助員として働いている四歳上の姉が日本への留学を勧めてくれました。日本では「医療福祉」ということが生活語としてすっかり定着しており、この分野の研究が中国よりはるかに進んでいるからです。小さいころから、姉は私の憧れであり、私が中学生のときに亡くなった母の病気をきっかけに、姉は医師に、私は看護師になりました。

今後は発展途上国においても人口の高齢化が急速に進み、高齢化をめぐる諸問題に取り組んでいく必要があります。日本は世界一の健康寿命（健康に過ごせる人生の長さ）を誇ります。中国においても人々の健康と長寿社会を実現するために、日本の成功したプロセスを参考にすべきだと考えています。実際に、中国では「一人っ子政策」の影響により、家族だけで親の面倒を見ることが難しくなってくるといった問題が懸念されています。また、日本は「在宅ケア」が進んでおり、ここから学ぶ点も多いと思います。

人類が追い求めてきた社会のあり方は、健康で幸せな暮らしが誰にも平等に保障され、誰もが尊厳と生きがいをもって自分らしい生涯を送ることのできる福祉社会です。こうした福祉社会を築いていくためには、保健・医療・福祉を担う人材が多く求められます。現在、本学の学部で学んでいる学生の皆さんは、医療福祉の最先端の知見に触れることができる環境にいることを忘れずに、高度な専門知識や職業技能を身につけて成長されることを願っています。中国と日本は、国際理解と友好親善に関心をもち、相互交流、協調事業を進めていかなければなりません。近い将来、私は皆さんと手を組んで、よりよい福祉社会を築くために貢献していきたいと思っています。

附属病院

国際医療福祉大学病院

病院長 桃井 眞里子



東京大学卒、医学博士。自治医科大学小児科学主任教授、同大医学部長等要職を歴任。日本学術会議会員。本学副学長。

診療・教育・臨床研究の向上に向けて

栃木県北に位置する当院は、広く北関東および南東北地域にも貢献する総合病院であるべく、医療体制の充実に努めております。昨年の救急応需患者数は県北で最多となり、応需率は常に九〇％前後を維持するとともに、受けられなかった例は全て検討し対応を改善してきました。また、各診療科で医療の質指数（QI）を定めて目標を明確にすると同時に、全死亡症例の診療録チェックによって医療の質の一層の向上に努めております。

昨年は、血液内科が常勤体制となり内科系診療の一層の充実が図られ、遺伝外来が開設され、出生前診断や遺伝相談など地域のみならず遠方からの専門医療ニーズにも応えております。

基本領域四診療科では専門医研修の基幹病院として受理され、医師育成にも努めており、四〇八床への増改築とともに、診療・教育・臨床研究の一層の発展に努めてまいりますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

附属病院

国際医療福祉大学塩谷病院

病院長 福井 康之



慶應義塾大学卒、医学博士。前国際医療福祉大学三田病院副病院長。日本脊椎髄病学会指導医、日本整形外科学会専門医。

医療体制の充実に継続

当院は、矢板市、さくら市および塩谷町を中心とする塩谷医療圏の基幹病院として、急性期、回復期、救急医療を通じて、地域の皆様に貢献すべく一同努力しております。

昨年は脳神経外科、整形外科、消化器外科の医療体制を充実させ、手術件数や救急車受け入れ件数も大きく増加しました。また、開設三年目となった塩谷在宅総合ケアセンターは、通所リハの利用者も初めて月間千人を超えるなど順調に推移し、医療と介護の両面から地域医療に貢献しております。

本年は、昨年より着手している救急外来、診療室八室の増築、予防医学センター、既存診療室の改修、MRIなど先進医療機器の入れ替えを実施し、さらなる医療の質の向上を図ってまいります。併せて、四月には災害拠点病院の認可を受ける予定であり、医療提供体制のさらなる充実を図ってまいりますので、なお一層のご支援をお願い申し上げます。

附属病院

国際医療福祉大学三田病院

病院長 宮崎 勝



千葉大学卒、医学博士。千葉大学大学院教授、同大学医学部附属病院長、同大学副学長を歴任。第112回日本外科学会会長、日本肝胆膵外科学会理事長。本学副学長。

良質な医療の提供を使命として

当院は東京都心の急性期病院として、また、高度医療を多くの患者様に提供しえる病院として機能しております。

昨年は四月に多くの医師が加わり、肺高血圧センターの新設、心臓血管外科の増員など体制を充実させ、年間手術件数が初めて三五〇〇件を越えるなど、より多くの患者様に良質な医療を提供することができました。二〇一七年は国際医療福祉大学医学部が成田キャンパスに新設され、当院もグループの他病院と同様に、さらなる病院機能の充実が求められているところでもあります。専門性の高い優秀な臨床医を多く抱える当院では、これまでの病院独自の文化、伝統的なよい面を保持しつつ、高い臨床能力を持った医療人が一段とその実力を発揮できるよう、病院として条件整備を行い、ひいては診療を受けられる患者様に、よりご満足いただけるよう努めてまいります。本年もご指導のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

附属病院

国際医療福祉大学熱海病院

病院長 佐藤 哲夫



東京慈恵会医科大学卒、医学博士。前国際医療福祉大学三田病院副病院長、元東京慈恵会医科大学助教授。日本呼吸器学会指導医。

病院改革のさらなる発展を

新年おめでとうございます。昨年はイギリスのEU離脱、アメリカ大統領選挙のトランプ現象など驚くような社会現象が起きました。本学では、念願の医学部が認可されるという大きな節目の年でもありました。当院では昨年、本部のご協力をいただき、院内のハード・ソフトの両面で改革に取り組んでおり、新しい年は、さらに発展させてまいります。

これらは患者さんに対するさらなるサービスと安全の向上になり、医療スタッフに対しては、より働きやすい環境に繋がります。これには各職員の自覚と実践が伴いますが、さらに魅力的な熱海病院になると 생각합니다。

さて、本年八月末開催予定の国際医療福祉大学学術大会の主管は熱海病院が担当いたします。医学部が開設されて初めての学会ですが、各キャンパスの皆様の日ごろの活動、教育、研究成果を発表していただき全学の連携を強める機会です。ご協力よろしくお願い申し上げます。

臨床医学研究センター

国際医療福祉リハビリテーションセンター

センター長 下泉 秀夫



本年四月、認定こども園を開設
当センターは、心身にハンディキャップを持つ方々への支援を目的とした、福祉から医療までの部門を持つ複合施設です。昨年は、長年の課題であった学生実習室やリハビリテーション室の拡充など、地域や関係機関の期待に応えるべく、増築改修により機能の充実を図りました。

徳島大学卒、医学博士。元栃木県身体障害者医療福祉センター医務科長。国際医療福祉大学大学院教授。

今年、社会福祉法人邦友会として、大学北側の隣接地に七八名定員の認定こども園「国際医療福祉大学金丸こども園」を開設いたします。地域では初の取り組みとなる病児保育など、当法人の特色を生かし、子育て世代に安心していただける施設運営に努めてまいります。本年もご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

臨床医学研究センター

新宿けやき園施設長

中谷 肇一



安定的な業務運営に邁進

当園は、全室個室の特別養護老人ホームと認知症対応型デイサービス、障害を持つ方々の入所施設など、複数の施設を併せ持つ多機能施設として、開設九年目を迎えます。これまで培ってきたノウハウを踏まえ、ご利用者の状況に即応した適時適切なサービスを提供できまよう、日々、職員の知識や技術の向上、業務改善に努めております。

東京農工大学卒。前東京都福祉保健局健康安全部部長。

昨年は、特養やデイサービスの稼働が目標を下回るなど、厳しい施設経営を余儀なくされました。今年は、人材確保はもとより、各職員がより一層力を合わせて、安定的な業務運営に邁進してまいります。引き続き、皆様方の温かいご支援をよろしくお願いいたします。

臨床医学研究センター

山王病院

病院長 堤 治



幅広い診療分野に対応

国際医療福祉大学の臨床医学研究センターである山王病院は、昭和一二年の創設以来、オープンで安心な、思いやりのあるプライベートルームを備えて、歴史を築いてまいりました。

近接する山王メディカルセンター、新棟の山王パースセンターと協力して、幅広い診療分野で外来・入院診療を行っております。

東京大学卒、医学博士。前東京大学医学部産婦人科学教室教授、元東宮職御用掛。日本受精着床学会理事長、日本産科婦人科内視鏡学会常務理事。

特に、昨年四月に開設したがん局所療法センターでは、すい臓がん、肝臓がんの低侵襲のがん治療を行い、アイセンター（眼科）では、あらゆる眼科疾患に対応できる総合的な診療体制をとっております。本年もご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

臨床医学研究センター

化学療法研究所附属病院

病院長 佐伯 直勝



医学部開設で高まる当院への期待

当院は一九三九年、当時国民病といわれた結核の化学療法研究を目的に設立されました。間もなく八〇年を迎える当病院にとりまして、大きな節目の年を迎えております。

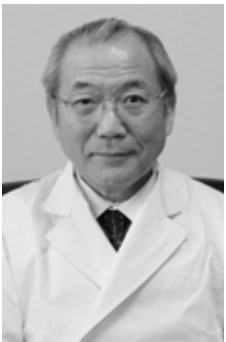
四月には成田キャンパスに医学部が新設され、二〇二〇年には国際医療福祉大学成田病院が開設されます。地理的に最も近い当院は、これまで以上に重要な役割が期待されています。[「至善至愛」の理念のもと、診療体制を強化し、救急告示病院としての使命、責任も果たす所存です。また、都市型の診療施設として訪問リハビリを開始するなど、地域の病診連携にも一層尽力していくことをめざしています。本年もよろしくお願い申し上げます。

千葉大学卒、医学博士。千葉大学名誉教授、前千葉大学脳神経外科学教授、日本脳神経外科学会専門医、日本神経学会専門医。

臨床医学研究センター

高木病院

病院長 工藤 祥



基幹病院としてさらなる貢献をめざす

当院はグループの母体病院として、今年で創設一〇七年を迎えました。その間、福岡県筑後地方および佐賀県南部地域の中核医療機関として質の高い医療を提供してまいりました。また、施設面としては、五〇六床、職員一二〇〇名の初期臨床研修基幹病院で、長年にわたって多くの研修医を輩出しております。

昨年は呼吸器外科および心臓血管外科の増強を図り、本年はシミュレーション・センターの稼働を予定しております。一方、地域医療連携部門では、外部施設からの紹介・逆紹介が増加し、地域の救急医療を担う基幹病院としても成長を続けています。本年もご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

本学はキャリアアップをめざす医療福祉職の方々を支援するため、大学院進学をはじめとするさまざまな学修の場を提供しています。

IUHW Graduate School Information

国際医療福祉大学大学院

医療福祉専門職として活躍中の卒業生のみなさん、
大学院でさらなるレベルアップをめざしませんか！
本学卒業生は入学金が免除となります。
本学グループ職員対象の奨学金制度もあります。

「働きながら大学院で学びたい」社会人が学びやすい3つの特長

- ①キャンパス** 大田原、成田、東京青山、小田原、熱海、福岡、大川に7つのキャンパスを開設しています。
- ②カリキュラム** 多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間にしています。
- ③同時双方向遠隔授業** 複数のキャンパスでリアルタイムに受講できます。質問やディスカッションといった同時双方向のコミュニケーションが可能です。

TOPICS 医療通訳・国際医療マネジメント分野を新設！

2017年4月、医療サービスの国際化に対応できる人材の育成を目的として、「医療通訳・国際医療マネジメント分野」を開設します。この分野は1年間の修士課程であり、医療通訳や国際医療事務に関する基本的な技術や知識とともに、医療機関等において国際医療サービスを展開していくために必要な経営戦略立案能力等を備えた人材を育成します。

詳細は大学院ホームページをご覧ください

<http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/index.html>

大学院入試に関するお問い合わせは入試事務室まで (TEL：0287-24-3200)

学べる!役立つ!究める!動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ
医療福祉eチャンネル <http://www.ch774.com> 好評配信中

主な配信番組

●理療療法分野
リハ評価指標 温故知新
～臨床力レベルアップ～

●介護・福祉分野
自立支援型ケアマネジメント・
自立支援介護

●医療・福祉・経営実務
社会保障の政策形成の最前線2
保健医療福祉政策論2

●リハビリテーション
共通分野

リハビリ職の
ための
医療福祉管理



●厚生労働省情報
全国介護保険・高齢者保健
福祉担当課長会議 (9月30日開催)
※無料配信

●乃木坂スクール
支援機器活用の最前線 (生活支援機器概論)

●情報BOX
納得!カラダ事典(健康に役立つ情報を専門医がわかりやすくお教えします)



お問い合わせは フリーダイヤル 0120-870-774 医療福祉eチャンネル お客さま係 (月曜～金曜 9:00～17:00)
Eメール info@iryoufukushi.com 〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

IUHWグループ職員・学生向け動画配信サイト 「国際医療福祉大学VODライブラリー」 <http://www.ch774.com/student.php>

主な 配信番組

●大学授業・副教材
死生学～死を通して生を考える～、教育学、雑談と傾聴～話す力と訊く力～、日本近現代史、宗教学、国際医療福祉論、世界遺産と国際文化政策、ボランティア論、医学・医療史、生命倫理、メディカルマナー入門、医療福祉教養講義、健康科学理論、リスクマネジメント論 等

広報誌 IUHW 108 号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

【大田原キャンパス】 広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000
【成田キャンパス】
千葉県成田市公津の杜4-3 ☎0476-20-7701
【小田原キャンパス】
神奈川県小田原市城山1-2-25 (本校舎) ☎0465-21-6500

【福岡キャンパス】
福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4 (1号館) ☎092-407-0805
【大川キャンパス】
福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000
編集：大田原キャンパス入試広報室 ☎0287-24-3210
デザイン：野佐デザイン



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

<http://www.iuhw.ac.jp/>

同窓会通信

Vol.13

昨年一〇月、関東支部会分科会及び九州支部会分科会を開催しました。いずれも知識の習得や相互の研鑽をはかることを目的としており、各キャンパスの同窓生が集まりました。

関東支部会開催報告

小田原キャンパス

第二回理学療法部門大会

大会長・多田英生さん(理学療法学科第一期生)

第二回同窓会は、テーマを「内部障害(呼吸、循環器、代謝系から考えるリスク管理)」とし、鈴木啓介助教が「循環器系、血液データから考える急性期におけるリスク管理」、大武聖講師が「代謝、腎機能から考える急性期におけるリスク管理」をテーマに講演し、リハビリテーション実施時に患者さんに及ぼすさまざまな身体的不利益を未然に防ぐために必要なことを学びました。



●城内校舎で初めての開催

特別講演は、「呼吸器系から考える急性期におけるリスク管理(呼吸リハビリテーションの四〇年を振り返って)」をテーマに、公益財団法人結核予防会複十字病院呼吸ケアリハビリセンターの千住秀明先生に

ご講演いただきました。最新の治療や呼吸器系のリハビリテーションについて考える貴重な時間を過ごすことができました。

シンポジウムでは、「内部障害における取り組み」について四名の先生が講演しました。各病院で実施している工夫や内部障害に対する今後の理学療法についてご紹介いただき、フロアを交えて活発な討論が交わされました。



●活発な意見交換ができたシンポジウム

今回は同窓会として初の試みである理学療法部門大会を兼ねて開催しました。同窓生四〇名を含む五八名にご参加いただき、盛会のうちに幕を閉じることができました。昨年四月に新設された城内キャンパスで開催した今回は、在学時代の思い出を振り返りつつ、本学のこれからの発展を感じるよい機会となりました。

現在七期生まで卒業していますが、今後同窓会を通じて繋がりを持ちながら、研鑽を重ねていきたいと考えています。

九州支部会開催報告

大川キャンパス

言語聴覚学科分科会

深浦順一学科長に開会の挨拶をいただき、講演会では、安立多恵子准教授から「発

達障害の最近の話題」をテーマにスライドを使った説明をいただきました。在学中に学んだ内容の復習も兼ねて、小児の発達障害の現状などについて、新しい知識を習得することができました。

症例検討会では、卒業生二名から担当症例についての現状や検討事項などを報告いただいた後、質疑応答を行いました。症例に対するアプローチ方法などについて情報を共有したり、先生方からアドバイスをいただいたりすることで、日頃、臨床現場で困っていることの解決のヒントを得ることができ、貴重な時間となりました。そこで学んだことを今後の臨床に生かし、言語聴覚士としてのさらなるステップアップに繋げていきたいと思っています。

分科会では、同級生との交流だけではなく、先輩や後輩、先生方と情報共有ができるメリットに加え、同職種だからこそ分り合える悩みや疑問点、解決策などを話し合えるよい機会となります。次年度もぜひ、できるだけ多くの卒業生にご参加いただきたいと思います。

大川キャンパス

作業療法学科分科会

今回は、以前の反省や希望を踏まえて内容を提案しました。まず、冒頭の講演会では、北九州市保健福祉局介護保険課地域支援事業担当係長(元厚生労働省老健局復興課介護支援専門官、作業療法士)の宮永敬市先生をお招きし、今後の日本の作業療法士の動向や社会保障制度をテーマにご講演いただきました。

今後、日本がどう考えてどう動いていくのか、そこで働く作業療法士がどのような役割を持ち、他職種や患者さんとう関係わればいいのかを学ぶ大事なきっかけとなりました。また、入院患者さんや介護保険サービスを受ける被保険者への自立支援に向けた働きかけが重要になることを学び、同時に、危機感を持つことができる内容でした。これからは機能訓練だけではなく、その患者さんの生活歴や背景、そして、各人が所属する市町村の特徴や時代背景を踏まえながら予後予測を立てていくことができれば、今よりも現実的な支援ができるのではないかと考えます。



●懇親会も大いに盛り上がった

また、学生時代に学んだ先生方とディスカッションを通して交流ができたことで、各人の不安や心配が解決するとともに、新たな課題を見つけることができました。今回感じたこと、見えた課題を意識しながら日々の業務にあたることで、それぞれが目標とする作業療法士に近づけるのではないかと思います。同窓生同士の絆も深まり有意義な一日となりました。



本学の学生の共通テーマである「国家試験」を「学生が学生にインタビューする」スタイルで扱っているこのシリーズは、学生や教員の注目度も高く、6回目になりました。今回も、国家試験を目前に控えた4年生が、来年は同じ状況を味わっている3年生に、この1年間の過ごし方を伝授します。

School of Health Sciences / Department of Nursing



回答者(4年生)
佐久間 司さん
福島県立福島西高校出身
久保田 遥さん
栃木県立烏山高校出身

保健医療学部 看護学科
インタビュー 2016年12月27日
第106回看護師国家試験
2017年2月19日実施
第103回保健師国家試験
2017年2月17日実施



インタビュアー(3年生)
神田 善幸さん
福島県立喜多方高校出身
藤田 彩貴さん
長野県長野西高校出身

Q 今はどんな勉強をしていますか？

佐久間 あえてまとめようとしないで、問題を解いて、わからないところを振り返っている。

久保田 外部の補講を受講して、苦手な分野を克服するようにしている。

佐久間 それと、自分たちで見つけてきた教材を友だちと一っしょに進めている。ペースを決めて、わからないところを共有しながら進めることで、モチベーションが維持できている。

Q これまで自主的にやってきた勉強は？

佐久間 1年のときは、自分の興味から、解剖や生理の教科書をながめることが多かった。2年では、病気や病態について、自分が興味を持ったテーマを調べることが多くなった。

久保田 いろいろな領域の勉強が始まるので、まず興味を持つことが大事。3年で実習が始まると、「自分のため」の勉強が「患者さんのため」に変わるので、勉強が一気に進んだ。

佐久間 実習の前にそれまでの総復習をしたが、今振り返ると浅かった。特に、方法論で扱う疾病は実習の場面で直面するので、授業以外でも自分なりに調べて準備した。

Q 4年になってからの計画は？

久保田 3年終盤の模擬テストの結果がさんざんだった。先生から、「今、危機感を持つことが大事」と勇気づけられて本気になった。

佐久間 4年になって初めは国試が控えている実感は持てなかった。夏までは、模試以外は、赤本や必修問題集に集中した。

久保田 国試に本格的に取り組んだのは実習が終わってから。でも、実習で経験した事例はテストの状況設定にぴったり当てはまるがあるので、国試対策としても役立つ。



Q プレッシャーは感じていますか？

久保田 夜眠れない、勉強していないと不安など、人それぞれ。でも、ひとりで抱え込まないこと。仲間や先生がいつもそばにいる。

佐久間 自分は引きこもって勉強するタイプなので、食事や運動などに気を使っている。

Q 下級生へのアドバイスを

久保田 苦手だった疫学で一度だけ1番になったことがある。自分が納得するまでやってみて報われることもあることがわかった。

佐久間 1年間がんばり続けることはできないので、4年になっても自分なりのメリハリのある生活や勉強のしかたを見つけてほしい。

「4年生の仲間への一言」を求めると、早くも、「やだ、泣ける〜」。4年間苦楽をともにしてきた連帯感が伝わってきました。
「全員合格！ 4月には全員が看護師や保健師として働けるようにしたい」

School of Health Sciences / Department of Occupational Therapy



回答者(4年生)
巻島 悠人さん
栃木県立小山西高校出身
藤田 有美華さん
茨城県立勝田高校出身

保健医療学部 作業療法学科
インタビュー 2017年1月5日
第52回作業療法士国家試験
2017年2月26日実施



インタビュアー(3年生)
大島 雄太さん
栃木県立今市高校出身
細井 志織さん
栃木県立黒磯高校出身

Q 4年になると、国試対策はどんなペースで進んでいきますか？

巻島 4月に、「国試ノート」と呼んでいる国試の過去問題10年分が配られた。そこから毎週1回テストがあって、その日は夕方6時まで、全員が缶詰状態で勉強に集中する。

藤田 9月から12月の初めまでは総合実習にかけきりになるので、国試を意識している余裕はなかった。

巻島 総合実習が終わると、習熟度別にグループに分かれて追い込みに入る。ひと通り終えたはずの過去問題の知識の中にも忘れてしまうものもあって、模試などの結果によっては学科の教室で缶詰状態で勉強しなければならない。

Q 前期の「国試ノート」が重要ですね。

藤田 そう。この段階でどのくらい理解している

かが、その後に響いてくる。

巻島 そのためにも、基礎になる運動、解剖、生理の理解は進めておくといひ。

Q 総合実習で理解が深まったことは？

藤田 実習が国試対策に結びついていることがたくさんあると感じた。今は、患者さんのことを思い出しなが問題と解くこともある。

巻島 脳卒中の患者さんを担当して、脳画像を見ながら、「どんな症状が出るか、どんなリハビリが必要か」を考えたことで、その後の理解が楽になった。

藤田 国試は出題範囲が広いので、座学では想像がむずかしいことを実習での経験をもとに理解できたことが大きな収穫だった。

Q 苦手分野はどんなふうに克服した？

巻島 問題と答えを丸暗記しても応用が利かない。苦手分野こそ、広く、そして少し深く理解

して、ほかの人に説明できるようになれば、自分のものになっている。

藤田 私は詰めが甘かったので、付箋などに「書いて」、それを何度も「見て」覚えた。

Q 来月末に試験を控えた今の生活は？

藤田 毎週水曜日に模試があり、ほかの日も大学に来て勉強している。まだ、睡眠時間を削るような生活ペースにはなっていない。

巻島 私も同じ。勉強時間の目標は1日10時間。息抜きの時間はあまりないけど、勉強する場所をいくつか持っておくと気分転換にもなる。自分分は家と大学の図書館とカフェ。

「国試に向けた自分の仕上がりは？」の質問に、ふたりとも「50〜60%」。そして、1年前は「0〜2%」。この1年で急こう配を登るように実力をつけてきたことがわかりました。そして、不安になったときは、同じ道をたどった先輩たちが残した合格率を励みに、また勉強に向かっています。